



令和5年度 長崎市立深堀中学校学力向上プラン

第4次長崎市教育振興計画
G1 長崎のまちを愛し、新たな時代を生きぬく子どもを育みます

学校教育目標
「共に学び、高め合う、希望あふれる生徒の育成」
◇学ぶ意欲
◇思いやる心
◇健やかな心身

- ・生徒、地域の実態
- ・保護者の願い
- ・教師の願い
- ・めざす学校像、生徒像
- ・学力向上にかかる課題

学力向上にかかる学校経営方針
「深堀中学生徒一人一人の確かな学力を保障する。」

研究主題
「自ら課題を発見し、将来を見据えて主体的に学ぶ生徒の育成」
～確かな基礎学力の定着と主体的に取り組む行動力の育成を通して～

学力調査を基にした指導計画、指導方法の立案
(学力向上プラン)

Plan

Do

学力向上プランに基づく職員の間通理解・共通行動による指導の実践(校内研修の充実と全職員による研究授業の実践)

新たな課題の確認と分析(次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への位置づけ)

↑

PDCAサイクル

↓

多方面から学校・職員・生徒の実態把握(学力調査等による生徒の実態把握、学校評価による教育活動の成果と課題確認)

Act

Check

本校の実態 (全国・県・市学力調査結果)

◆3年生
○学力テストで国語は全国平均を上回り、数学・英語ともに全国平均を下回っている。
○学習の必要性を感じているが、課題に粘り強く取り組む姿勢、家庭での計画的な学習への取組が課題である。
○物事をやりぬく気持ちや希望を持たせるため、教師が賞賛・励ましを行い、自主的な学習を促す。

◆2年生
○国語・数学ともに県平均を下回った。
○国語では、文章を正確に理解・把握させるポイントをしめし、それを活用した読み取りの訓練をしていく必要がある。
○数学では、特に「図形」や「データの活用」の活用率が低い。

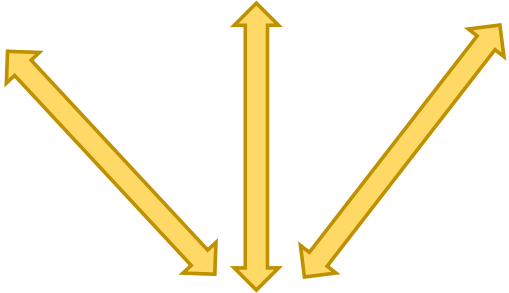
◆1年生
○国語・数学ともに市平均を下回った。
○特に、「書くこと」「読むこと」の領域の学力が不足している。
○数学科は、ほとんどの領域で低く、数と式の分数計算、百分率、データの活用の内容に大きな課題がある。

本校の学力課題

○聞く力、書く力、読む力の向上
○気付いたこと、感じたこと、考えたことを整理して表現する力の向上
○図形や関数、データ活用の問題の基本的な性質を理解する力及び1年生においては基礎・基本的な内容の理解と計算力が課題
○家庭学習の習慣化(家庭との連携)
○目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を示して自分の考えを説明する。

改善を把握する設定目標

○全学年とも、すべての教科の表現を問う問題において、今年度よりも5%の向上をめざす。
○全学年とも、すべての教科で、無回答率が0%になることを目指す。



課題解決のための具体的手だて			
授業における指導内容や方法の工夫	授業外における学びの場の工夫	学習評価活動等の工夫	家庭や地域等との連携の工夫
①毎授業での「ねらい」と「まとめ」が分かる授業実践。 ②学習規律の徹底(2分前学習) ③T-Iによる生徒への指導支援。 ④学力調査結果分析及び検証問題の実践活用。 ⑤ICT機器及びクロームブックの積極的活用。 ⑥全職員による研究授業の実施及び効果的な授業研究。	①深堀タイム(FT)及び自学ノートの研究。(キュビナの活用を含む) ②放課後等に質問教室の実施。 ③長期休業中を利用した補習教室の実施。 ④市・県作成のアシストシート等の有効活用。 ⑤屋読書及び読書活動の充実。 ⑥マンダチャートの活用	①「特別の教科道徳」の指導方法及び、評価のための共通理解及び職員研修。 ②生活ノート、自学ノート等からの担任の学習把握と適切な指導。 ③ICT機器・キュビナ等の職員研修による充実。	①小中合同研修会の実施。 ②「家庭学習の手引き(改訂)」の有効活用。 ③テスト計画表の保護者チェックによる家庭学習の把握。 ④家庭におけるクロームブックやキュビナの活用。 ⑤オンライン授業。 ⑥アセスの活用。